

# 令和元年度 施策評価表

施策(章)	第6章『環境・自然』
-------	------------

まちづくりの目標	豊かな自然と共生する持続的発展可能なまちをめざします
分野別計画・指針	マチごとエコタウン所沢構想、第2期所沢市環境基本計画 改訂版、所沢市地球温暖化対策実行計画(改訂版)、所沢市みどりの基本計画、公共施設緑化ガイドライン みどりつなぐまち 所沢、所沢市一般廃棄物処理基本計画

- 基本構想で掲げたまちづくりの目標の実現に向けた主な方針
- ◆ 地球温暖化対策の推進
  - ◆ みどりや水辺の自然環境の保全と都市におけるみどりの創出
  - ◆ 循環型社会形成をめざしたごみの減量と資源化の推進

基本構想で掲げた「市の課題・方向性」への取り組み状況に対する振り返り

○マチごとエコタウン所沢構想に基づき、市民・事業者への創エネ・省エネ機器の導入支援を行うとともに、埼玉エコタウンプロジェクト(平成27年6月採択、重点取組街区:松が丘)関係事業やマチごとエコタウン推進基金を活用した道路照明灯や防犯灯のLED化事業の実施、計画的な公園灯のLED化の取組みなどを行うとともに、さらにエコファミリー宣言などの環境配慮行動の普及啓発事業を進めて、市域における温室効果ガス排出量の低減を図った。

○再生可能エネルギーなどを活用した環境にやさしい電力を広めることで、持続可能なエコタウンを実現するため、「株式会社 ところざわ未来電力」を設立した。

○「マチごとエコタウン所沢構想」の理念等を踏襲し進化させた「所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)」を策定した。

○再生可能エネルギー推進の観点から、水道水の送水圧力エネルギーを利用して発電する小水力発電設備を所沢市東部浄水場に設置した。

○大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等の防止を目的に、発生源となりうる事業所に対する監視、指導等を行うことにより、環境保全に努めた。

○みどりの保全や創出のため、特別緑地保全地区や里山保全地域などの地域制緑地の指定を行い、まとまりのある一団のみどりを保全するとともに、まちなかのみどりの保全・緑化を進めるため、上安松まちなかみどり保全地区の指定、埼玉県との協力を得て保育園1園において園庭の一部の芝生化を行った。

○所沢カルチャーパークは事業用地約2,999㎡を取得するとともに施設の配置整備計画を見直した。街区公園の松戸橋公園は事業認可の取得や詳細設計を進めた。

○みどりの保全や創出を推進し、みどり豊かで潤いのあるまちなみを形成するため、「所沢市みどりの基本計画」を策定した。

○「食品ロスゼロのまち推進事業」、「もったいないの心推進事業」等によって、ごみの発生・排出の抑制や資源化を推進することで、ごみ排出量を着実に削減した。また、不法投棄及び資源物持ち去りを防止するため、定期的なパトロールを実施するなど、継続的な監視等の対策を講じた。

○東部クリーンセンター及び西部クリーンセンターの改良工事実施及び両クリーンセンターの長期包括運営業務委託により、ごみ処理施設の安定稼働と機能維持を図り、質の高い施設運営と効率性の向上に努めた。

○自区内処理の原則に基づき、新たな一般廃棄物最終処分場の整備を進めるため、基本設計や用地測量、土地評価等を行い、最終処分場用地の取得を進め事業の推進を図った。

○市長の「マチごとプラスチックごみ削減」宣言に基づき、プラスチックごみの削減に向けた取組みを開始した。

○埼玉県が行う柳瀬川改修事業を進めるため、清柳橋の架け替えに関し関連自治体と平成30年度協定を締結し、県が行う橋の詳細設計を進めた。あわせて周辺で影響を受ける市道の概略設計を行った。

○集中豪雨等に対する治水対策として、河川・水路整備を推進するとともに、多様な生物が生息し、市民が親しめる多自然川づくりを進めた。

○「エコロまつり」、「エコファミリー大賞」等のイベント開催やfacebook『恋してマチエコ』の開設などを通じて、資源やエネルギーに依存する生活を見直すきっかけづくりに努めた。

評価日 令和元年8月1日 記入者職氏名 環境クリーン部次長 一井 里映

指標の達成状況	節	目標指標	単位	(H25) 現状値	H30年度実績	H30年度目標値
	第1節 環境との共生		環境基本計画に掲げた目標の達成率	%	59.6 (H24)	71.9 (H29)
		市域における温室効果ガス排出量の削減率	%	0.89 (H24)	2.03 (H29)	3.80
第2節 全・公園の整備	みどりの保	新たに確保するみどりの面積	ha	28.34	84.73	42.00
		都市公園の整備面積	ha	135.0	141.5	147.4
		みどりのパートナー制度の登録者数	人	682	1,401	1,000
第3節 環境保全		大気環境にかかる環境基準の達成率	%	80.0	86.4	100
		水環境にかかる環境管理目標の達成率	%	97.0	100	100
第4節 廃棄物の減量・資源の循環	健全な水資源の保全	市民1人当たりのごみ排出量	g/人・日	618	575	578
		事業系ごみの排出量	トン/日	56	49.0	56
		総ごみ量に対するリサイクル率	%	26.8	28.8	29.1
第5節	健全な水資源の保全	雨水流出抑制指導による施設の設置割合	%	100	100	100
		水辺のサポーター・ふるさとの川再生団体数	団体	6	8	8

第1節	環境との共生	一人ひとりの環境に対する意識が高まり、人と環境が共生するまち			
基本方針	6-1-1 地球温暖化対策の推進				
	6-1-2 生物多様性の確保				
	6-1-3 環境に配慮した都市空間の整備				
	6-1-4 環境施策への参加と協働の推進				
関係所属	管財課・環境政策課・みどり自然課・生活環境課・東部クリーンセンター・給水管理課				
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		181人	8.7%	28位	5位
節の基本方針への取り組み状況					
<p><b>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</b></p> <p>○持続可能なエコタウンを実現するため、「マチごとエコタウン所沢構想」の理念等を踏襲し進化させた「所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)」を策定した。</p> <p>○再生可能エネルギーなどを活用した環境にやさしい電力を広めるため、「株式会社 ところざわ未来電力」を設立した。</p> <p>○持続可能なエネルギーの推進、気候変動の影響への適応に取り組むことにより、持続可能でレジリエント(強靱)な地域づくりを目指すため、埼玉県内の自治体として初めて「世界首長誓約/日本」に署名した。</p> <p>○EU(欧州連合)が実施する国際都市間協力プロジェクト(IUCプロジェクト)において、スロバキア共和国の首都であるブラチスラバ市と連携し、気候変動適応策やスマートエコシティづくりをテーマに互いの施策を学び合い、環境施策の推進に繋げていくため、H30年度はブラチスラバ市でスタディツアーを実施し、視察や情報共有を行った。</p> <p>○再生可能エネルギー推進の観点から、水道水の送水圧力エネルギーを利用して発電する小水力発電設備を所沢市東部浄水場に設置した。</p> <p>○マチごとエコタウン推進基金を活用し公園内の照明灯88灯をLED化し、消費するエネルギーの削減を図った。</p> <p>○環境分野に関する様々な取り組みが評価され、「全国市区サステナブル度・SDGs先進度調査」において、環境部門全国1位の評価をいただいた。引き続き様々な取り組みを進めて、環境との共生に努めていく。</p>					
<p><b>◆ 平成30年度の目標指標が未達成の場合、その理由・分析</b></p> <p>○市域における温室効果ガス排出量の削減率について、平成29年度実績を見ると東日本大震災以降、温室効果ガス総排出量は概ね減少傾向にあるものの、エネルギーの多くを占める電気使用に係る排出係数は基準年度と比較しまだ高いことから、達成が困難な状況となっている。このため、家庭部門に加え事業部門に対する温室効果ガス排出量削減策を進めるとともに、環境性能の高い電力への転換を促すなど、排出係数にも着目した取組を進めていく必要がある。</p>					
評価日	令和元年8月1日	記入者職氏名	環境クリーン部次長 一井 里映 上下水道局次長 肥沼 宏至		
第2節	みどりの保全・公園の整備	一人ひとりの参加によってみどりや公園が守り育てられるまち			
基本方針	6-2-1 自然豊かなみどりの保全				
	6-2-2 市街地のみどりの創出				
	6-2-3 親しみのある公園の整備				
	6-2-4 市民参加によるみどりを支える仕組みの充実				
関係所属	みどり自然課・公園課				
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		353人	17.0%	10位	1位
節の基本方針への取り組み状況					
<p><b>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</b></p> <p>○観光客や近隣住民が安全に周遊できる散策路の整備として、狭山湖周辺人道橋整備工事の発注を行ったが受注業者が決まらず、鋼材等の市場調査を踏まえて、詳細設計の変更を行うこととなった。</p> <p>○みどりの保全を図るため、「駒ヶ原特別緑地保全地区の指定拡大」(8.2ha)、「上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域」(23.9ha)の指定とともに、「三ヶ島二丁目里山保全地域」外の用地4筆、6,517㎡、「元三ヶ島二丁目墓地計画地」14筆10,818㎡を公有地化した。また、まちなかのみどりの保全・緑化を進めるため、上安松まちなかみどり保全地区(364㎡)の指定、保育園1園において園庭の一部の芝生化を行った。</p> <p>○みどりのパートナー活動を推進した結果、登録者が1,401人となった。また、みどりのパートナー研修の初級編を実施した。</p> <p>○所沢カルチャーパークは事業用地約2,999㎡を取得するとともに、事業完了に向け施設の配置整備計画を見直した。街区公園である松戸橋公園は事業認可の取得や詳細設計を進めた。</p>					
<p><b>◆ 平成30年度の目標指標が未達成の場合、その理由・分析</b></p> <p>開発に伴い帰属される公園面積が想定より少なかった事、及び所沢カルチャーパークで予定していた用地取得が困難となったため。</p>					
評価日	令和元年8月1日	記入者職氏名	環境クリーン部次長 一井 里映 建設部次長 埜澤 好美		

第3節	環境保全	地域環境の保全と改善を推進し、環境への負荷が少ないまち			
基本方針	6-3-1 大気環境の保全と改善				
	6-3-2 水・土壌環境の保全と改善				
	6-3-3 環境リスク対策の推進				
	6-3-4 生活環境の向上				
関係所属	市民課・環境対策課・生活環境課				
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		263人	12.7%	16位	3位
節の基本方針への取り組み状況					
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大気環境の常時監視を行うとともに、発生源となりうる事業所への立入検査や指導等を行った。</li> <li>○河川や地下水の水質汚濁の状況を監視、測定するとともに、発生源となりうる事業所への立入検査や指導等を行った。</li> <li>○土壌汚染対策や土砂のたい積規制等を行った。</li> <li>○騒音・振動・悪臭等の公害苦情相談を実施し、早期解決に努めた。</li> <li>○市有施設におけるPCB含有廃棄物の適正処理を行うための詳細調査、処理状況調査に続く保有・保管状況等再調査を実施した。</li> <li>○東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質による環境へのリスクに対応するため、引き続き監視業務を行った。</li> </ul> <p>◆ 平成30年度の目標指標が未達成の場合、その理由・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「大気環境にかかる環境基準の達成率」については、オキシダント濃度が環境基準未達成となっているもので、全国的に見ても非常に達成が困難である。引き続き工場・事業場などの排出ガス対策、低公害車の普及啓発等を総合的に推進することが必要である。</li> </ul>					
評価日	令和元年8月1日	記入者職氏名	環境クリーン部次長 一井 里映		
第4節	廃棄物の減量・資源の循環	一人ひとりがごみの減量と資源化に取り組み、循環型社会が形成されるまち			
基本方針	6-4-1 ごみの減量と資源化の推進				
	6-4-2 環境に配慮したごみ処理体制の推進				
	6-4-3 し尿の適正処理の維持				
	6-4-4 不法投棄防止対策の充実				
関係所属	資源循環推進課・東部クリーンセンター・西部クリーンセンター・収集管理事務所				
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		247人	11.9%	17位	4位
節の基本方針への取り組み状況					
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「所沢市一般廃棄物処理基本計画」部分改訂及び「所沢市災害廃棄物処理計画」策定に係り、廃棄物減量等推進審議会を3回開催した。</li> <li>○ごみ減量及び資源化の推進に係り、職員が率先して「マチごとプラスチックごみ削減」に取り組むことを、平成30年12月20日付で宣言した。</li> <li>○(仮称)第2一般廃棄物最終処分場整備事業については、建設予定地の一部の土地を購入するとともに、基本設計を策定した。</li> <li>○東部クリーンセンター改良工事については、1号炉の基幹的部分の改良工事を実施し、また、東西クリーンセンターにおいて長期包括運營業務委託を開始し、適正な施設運営に努めた。</li> </ul> <p>◆ 平成30年度の目標指標が未達成の場合、その理由・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資源化品目のリサイクル総量が前年度比-232t/年(主に減った項目「びん・かん・スプレー缶」-137t/年、「容器包装プラスチック」-114t/年、「新聞・雑誌・雑がみ・段ボール」-278t/年)になったことにより「総ごみ量に対するリサイクル率」が未達成となった。これは景気の動向等の複合的な要因が影響したことが原因と思われる。引き続きごみの減量化と資源化の推進に取り組んでいく。</li> </ul>					
評価日	令和元年8月1日	記入者職氏名	環境クリーン部次長 栗原 祐治		

第5節	健全な水資源の保全《河川・水路》	自然と都市に適した水環境があるまち			
基本方針	6-5-1 河川流域の保全				
	6-5-2 総合的治水対策の強化				
	6-5-3 河川・水路機能の充実				
関係所属	みどり自然課、河川課、道路建設課				
施策に対する市民ニーズ（「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果）		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		271人	13.1%	14位	2位
節の基本方針への取り組み状況					
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○大雨に対する治水対策として埼玉県が行う柳瀬川改修事業を進めるため、清柳橋の架け替えについて関連自治体と協議を重ね平成30年度協定を締結し、県が行う橋の詳細設計を進めた。あわせて架け替えに伴い影響の出る周辺市道の概略設計を行った。</p> <p>○集中豪雨時の河川・水路による浸水被害を防ぐため、浚渫や除草などの維持管理を行ったほか、坂之下地内で水路改修工事を行った。</p> <p>○山口地内の「ふるさとの川再生事業」の予定地については、地域住民と話し合いながら整備計画案を定め、概算工事費の積算を行った。</p> <p>○開発事業による雨水流出を抑えるため、すべての開発事業者（109者）に雨水流出抑制施設設置の行政指導を行い、施設設置の完了を確認した。</p> <p>◆ 平成30年度の目標指標が未達成の場合、その理由・分析</p>					
評価日	令和元年8月1日	記入者職氏名	環境クリーン部次長 一井 里映 建設部次長 埜澤 好美		